

第九たいはず *Beethoven*

No.29 2017.1.12 通刊1219号 担当 あきら

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX: 027-322-0996 緊急 090-1828-8052(小野里)

昨年末の演奏会、舞台は気迫に満ちていた。合唱団が気持ちを合わせ、歌い切った。結果はすばらしかった。

◆ 明けましておめでとうございます！ 団長 赤羽洋子

年頭にあたり 皆様と共に力を合わせ高崎第九合唱団が益々発展しますよう盛り上げていこうとの気持ちを新たにしております。

大晦日から日が変わるだけの元旦ですが、何故かふっくらとした華やかな歓びを感じる胸のときめきは、新しくなることの魅力でしょうか。黒い土から金色の花弁を伸ばし力強く咲く福寿草のように精一杯輝いていきましょう。

昨年の演奏会では皆様の団結力にただただ圧倒されました。これだけの集中力を今まで見た事は有りませんでした。本番前は不安で胸が痛みましたが合唱が始まった途端、何が何でも指揮について行こうとの迫力は圧巻でした。高崎第九合唱団の演奏での底力は素晴らしく、関わっている幸せを噛みしめました。言葉どおり「苦しみを乗り越えて歓喜にいたる」の心境でした。

これからの高崎第九合唱団は沢山の事業を予定しています。5月28日メイコンサートは出来田三智子さんとのカルメン。日本人が大好きなオペラの第1位です。女性はタバコ女工、酒場女、闘牛場観客、男性は兵士、酒場の客、盗賊、闘牛場観客 etc。覚えておいて無駄のない合唱曲ばかりです。他のステージでは次年度の海外公演に備えて合唱で「八木節」にも挑戦します。

そして9月10日(日)高崎音楽祭では群響と加藤登紀子さんのバックコーラス出演 Offer が来ています。12月16日、第44回第九演奏会が高関 健群響名誉指揮者との初共演

平成30年は高崎第九合唱団45周年記念祝賀会。同年10月を目安に第9回海外公演をポランド調整中です。平成31年文化芸術新ホール柿落しに高崎第九合唱団として出演します。

44年目の高崎第九合唱団は皆様の団結力で更に大きく羽ばたくよう Step up していきましょう。

◆ 本日は新年会(ミニコンサート付)、来週19日から練習開始(楽譜も販売)です

皆さんが少しずつお持ちいただいたものをみんなで楽しくいただきましょう♪ 団ではビール、コーヒー、お茶を用意しています。第九の歌い初めもあります♪ 本日、練習はありません。

会場にゴミ箱はないので、終了後の片付けのお手伝いと各自お持ち帰りをお願いします。

来週から販売の楽譜はカルメン2冊、日本の歌1冊、合計3冊で900円です。

◆ 第九演奏会のCD、本日に限り追加受付！

12月10日第九演奏会は、群響の許可を得て群馬音楽センターで録音し、団にてCDにします。団の記録財産を出演された団員のみにお分けしております。価格は1枚1,000円ですが販売目的ではありません。練習会場で受付順に配布します。コピー・ダビングは一切禁止です。

※演奏会写真は、井田写真館扱いで申込者に郵送済です。DVDは作成しません。

◆ 平成28年度高崎市社会教育功労者表彰

演奏会の翌日12月11日(日) 高崎市民活動センター ソシアスにおいて、アルト竹田勝子さんが高崎市社会教育功労者として表彰されました。

合唱団JOYのコーラスも華を添え、駆け付けた団員から竹田さんに祝福の声がたくさん届きました。竹田さん、おめでとうございます。



◆ 足利の第九演奏会について 12月18日(日)

「足利の第九演奏会」初演以来、男声を中心に助っ人をお互いに出しています。昨年末は、女声にも急きょ助っ人依頼があったため女声役員が参加し、盛大な演奏会になりました。

本日、足利市民合唱団からサブレの差入れが届いています。

◆ 今後の予定 2017年(平成29年)

- 1月12日(木) 新年会・歌い初め(練習会場)
- 1月19日(木) **これより毎週木曜日、メイコン通常練習**
- 4月16日(日) メイコンサート特別練習(高崎市中央公民館)
- 5月18日(木) 総会+ミニコンサート(練習会場)
- 5月28日(日) メイコンサート(群馬音楽センター)
- 6月 8日(木) 発声式(練習会場) ※6月1日はお休みになります。

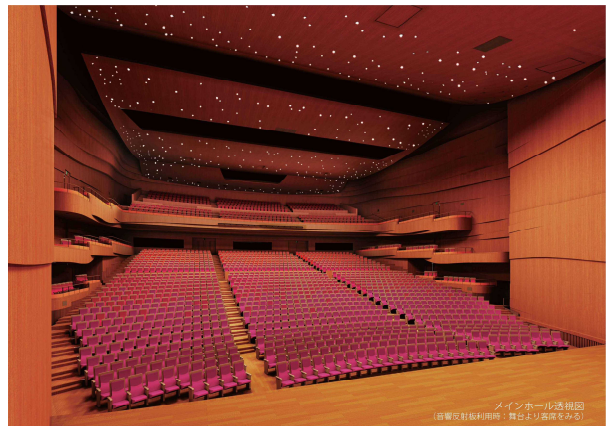
◆ 第9回ヨーロッパ公演 2018年10月計画中！

当団は1985年、日本の第九合唱団として初のヨーロッパ単独公演をドイツ・ハイデルベルクにて行いました。その後、チェコ、ドイツ、ポーランド、リトアニア、スロヴェニア、スペイン、ドイツにてヨーロッパ公演を開催し、第9回を計画する時期になりました。

第9回は、2回目となるポーランドで計画中です。ポーランドは、第二次大戦がはじまり、犠牲者最多だったので、最も平和を大切にしています。そして親日家が多い、ショパンの国です。

◆ 高崎文化芸術センターこけら落し 2019年に向け計画中！

すでに着工している高崎文化芸術ホールについて、2019年竣工・こけら落しの準備が進んでいます。まずは、今年9月10日(日)高崎音楽祭に出演する予定です。その後も2018・2019年と続け、こけら落しにつながるよう計画中です。



◆ 演奏会チケット販売について 【事務局長 あきら】

昨年12月10日の演奏会には、1594名のお客様がご来場されました。日本中で開催されるおよそ200と言われる第九演奏会のほぼすべては、団員が主体となってチケットを売っています。

130名の団員数で割り返すと一人当たりの動員数がわかりますね。ご夫婦での出演もありますから、お一人平均10～15枚が本来のノルマです。当団はこのような強制はしておりませんが、もし「1桁しか売れなかった」という方は、「平均以上売ってくださった多くの団員のお世話になった」ことを忘れてはいけません。チケット販売の苦手な方は、プログラムの広告集め、チラシ入れ、イオン11日の呼びかけ、新聞・フリーペーパーへの投稿など、あなたにできる協力をお願いします。

寒空に時間と交通費をかけ、団員以外からチケットを買っていただいたお客様は、実に450名以上いらっしゃいました。東京、神奈川、長野など県外からもお客様が来ています。充実した練習を行った合唱団のチケットは売れるものです。(「売れない」は売らない人のセリフと言われています。)

お客様は1305名(41回)→1502名(42回)→1594名(43回)と増えています。様々な機会をとらえ演奏会を告知してください。お客様は必ず期待に胸を膨らませて演奏会に来てくださいます。

◆ 1月お誕生日の方々 おめでとうございます！ (※敬称略)

渡辺 寛子(1日/A)、羽田 二郎(2日/T)、大竹 かな枝(3日/S)、深町 光男(3日/B)、
樺澤 節子(4日/A)、亀山 輝代(4日/A)、田辺 恵子(7日/S)、長谷川 秀子(10日/A)、
若月 治郎(13日/B)、戸谷 宏之(15日/T)、篠崎 ひさ子(16日/A)、小林 薫子
(18日/S)、藤巻 千鶴子(18日/A)、大崎 政文(21日/B)、栗林 和子(28日/A)、
宮川 陽子(29日/A) ※掲載を希望されない場合は受付にお伝えください。



グンマの 現在地 2

外国人インタビュー

高崎市在住のロシア人ピアニスト、ユリア・レブさん(52)は県内外で伴奏者として活動するほか、ロシアの音楽や文化を紹介するイベントを企画する。演奏活動を通して、多くの日本人や、国内に住む外国人と触れ合ってきた。豊かな自然に囲まれる本県での生活に満足しながら、世界の伝統や文化への関心が広がらない現状を懸念している。

―出身はロシア・サンクトペテルブルク。本県へ移り住んだ経緯は。

夫(レオニード・グルチンさん)が群馬交響楽団の首席チェロ奏者として働くことになり、2001年9月に家

ピアニスト(ロシア出身)

ユリア・レブさん(52)



ロシア・サンクトペテルブルク音楽院卒業。音楽劇場に所属した後、ペテルブルグコンサート協会のアンサンブルピアニストとして活躍。2001年に来日、県内外で音楽活動が続ける。高崎市。

「音楽のまち」に感謝

族3人で来日して、高崎市で暮らすことになった。それ以前は、サンクトペテルブルクで伴奏と、アンサンブルのピアニストとして活動していた。

―ロシアと日本で違いを感じる部分は。

(旧ソ連の)ペレストロイ

カ(改革)の時代は買物にとても時間がかかったが、今は住みやすくなった。日本はいつでもどこでも何でもある。生活するのが簡単で素晴らしい。

ロシア語と日本語は文法が異なる。日本では最後まで聞かないと、話の中心が見えて

こない。そこが最初は難しかった。また、日本では我慢することを学んだ。すぐに怒って、気持ちを出すことがあったが、今はまず考える。いい我慢もあると知った。政治のことは良く分からないが、ロシアと日本の間には海しかない。遠いと感じるが、隣の国

だ。友好がより深まることを願いたい。

―群馬交響楽団が生まれた高崎市は「音楽のまち」を打ち出している。

群響があることは大きい。70年間活動が続け、子どもの頃から知っている人が多く、たくさんの方が定期演奏会に訪れている。音楽にすごく興味を持っている人がいるのだと思う。

群響にさまざまな楽器の演奏者がいることは、自分が音楽活動をする上で役立っている。こうした人たちが伴奏を依頼され、一緒に演奏することができる。すごくうれしい。群響では外国人も働いている。6年前からフランス、中国の演奏家と一緒に演奏している。高崎市は大きな街ではないけれど、群響のおかげでいろいろな国の人たちが出会える。高崎に感謝している。

20面に続く

グンマの 現在地

―来日して15年が過ぎた。群馬や高崎の印象、暮らしやすさは。

来日当初は知り合いがいなくて、日本語も話せないのが、大変なこともあった。今はさまざまな国の人が住んでいるが、当時はまだ少なかった。日本語を覚えたり、生活に慣れてくると、次第に仕事が増えていった。音楽家は言葉が話せなくても、演奏ができれば困らないこともある。そこは楽だった。

群馬で会った人はとても優しい。仲良くなり、友達もたくさんできた。自然もきれいで心が休まるし、野菜や果物もおいしい。東京から近く、日帰りの仕事もできる。

―日口間には政治的な問題がある。昨年12月には首脳会

ピアニスト(ロシア出身)

ユリア・レブさん(52)



「ロシアで近年、日本の料理や音楽などへの関心が高まっている」と話すユリア・レブさん

談があった。とても難しいことだと思う。自分では何もできないので、専門の人に任せるしかないが、二つの国がいい関係になり、より近くなるのが大事だ。文化や音楽、踊り、詩などつながりはたくさんある。自分ができることをして、近くに感じるようにしたい。

―ロシアを

他国の文化に関心を

じめ海外からの旅行者に喜んでもらうために必要なことは。

日本人は欧米人を見掛ける、英語で話し掛けてくるが、ロシア人にとって英語は外国語で、全員が話せるわけではない。まずは日本語で「日本語

を話せますか」と聞いてほしい。看板のローマ字表記は役に立っている。漢字は難しく、地名が読めないこともある。

―高崎や群馬に住む人に期待したいことは。

群馬の人は音楽がとても好きだが、新しい曲を聴きたが

る人は少ないという印象だ。コンサートでは有名な曲を期待する人が多い。

日本では11月からずっとクリスマスソングが流れる。クリスマスが楽しいのは分かるが、自分の国やほかの国のさまざまな文化に関心を持ってほしい。

ロシアでは大みそかが一番にぎやかになり、日付が変わった瞬間に乾杯する。スペインでは新年の幸せを祈り、ブドウを食べる習慣もある。一つの文化に集中するのではなく、他の国の文化にもっと興味を持ってほしい。

―これから先、音楽家として日本で取り組みたいことは。

4年前から秋にロシアと日本の音楽を紹介するイベントを開いている。両国の交流を活発にしたい。日本ではまだ学ぶ人が少ない伴奏についても教えていきたい。